



# 電車どおり

平成20年11月25日発行 第39号 函館中央病院 発行責任者 橋本友幸



日本医療機能評価機構認定施設、総合周産期母子医療センター

**基本方針**  
 私たちは、患者さまの権利とプライバシーを尊重した医療を提供します。  
 私たちは、チーム医療を実践し、患者さまに応じた医療を提供します。  
 私たちは、地域の医療機関との連携を強化し、医療環境の発展と充実を図ります。  
 私たちは、日々研鑽し、最高で高次の医療を提供します。  
 私たちは、一人一人が幸せで働きがいのある病院を目指します。

## 中・央・病・院・前

久しぶりに市電の写真を掲載します。

この「電車どおり」という本誌のネーミング

にちなんで、はじめの頃は市電の写真を多く掲載していました。最近では市内の風景写真などを掲載することが多かったです。平成17年10月の創刊から3年が過ぎましたので、原点にかえり徐々に市電の写真となりました。昔から走っている電車やラックル号のように近代的な電車などいろんな電車が市内を走り回っています。さて、今年もいよいよ12月です。師走を迎え、皆さんも走り回るケースが多々あると思います。十分に気をつけて下さいね。



## クリスマスコンサート開催



毎年開催しているクリスマスコンサートを今年も開催します。例年は休日に開催しておりますが、今年は12月13日(土)午後13時～15時の特設会場で開催します。

コンサートでは石崎小児科の石崎先生によるハーモニカ演奏や職員のピアノ演奏、また、看護部渉外委員会からの出しものも企画しております。毎年一番盛り上がるのは当院保育園児たちの元気いっぱいのお歌と踊りです。入院患者さまや一般の方が参加出来るゲーム大会も企画しております。ゲーム大会ではサンタクロースから一足早いクリスマスプレゼントもご用意しております。

お時間がありましたら是非、クリスマスコンサートにお越し下さい!

**日時** : 平成20年12月13日(土) 14:30~

**場所** : 当院南棟1階正面ロビー特設会場

## 特集

### ～ 道南地方の周産期医療 ～



【総合周産期母子医療センターとして】

最近、テレビや新聞等で問題として取上げられている周産期医療について、道南地方唯一の『総合周産期母子医療センター』である当院の取り組みと地域の実態を含めながら皆さまにご説明致します。

当院 産婦人科常勤医師 6名 小児科常勤医師 8名

#### <産婦人科>

当院は平成20年2月22日付で、『総合周産期母子医療センター』の指定を受けました。

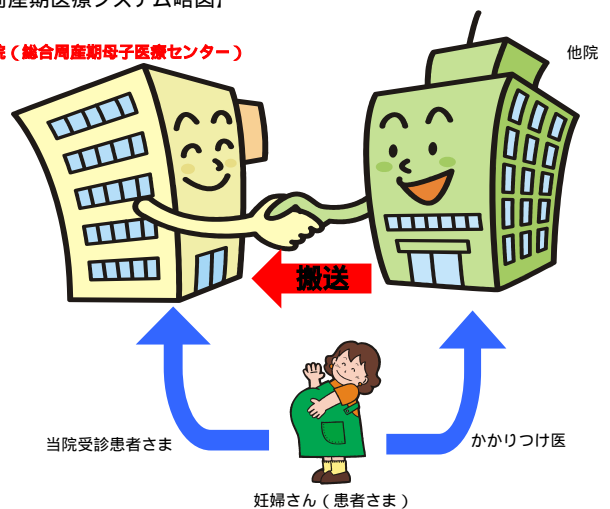
以前は、『地域の周産期医療を行なっているが、国が定める基準(施設・医師の配置など)を満たしていない“認定病院”』として周産期医療に取り組んできましたが、昨年度、MFICU(母体・胎児の集中治療管理室のこと)などの施設を整備し、国の定める基準を満たし、“指定病院”となりました。北海道内で『総合周産期母子医療センター』の指定を受けている病院は当院を含め3つの病院があります。

当院は道南地域唯一の『総合周産期母子医療センター』として、道南全域の周産期医療で中心的役割を果たしています。昨年1年間の当院での分娩件数は823件で、これは道南全体での分娩件数である3295件の約4分の1にあたりますが、特にお母さまやお子さまに危険性の高い妊娠・分娩の場合は、ほとんどの方が当院で分娩をされています。

当院の産婦人科では、毎日24時間体制で救急搬送に対応しており、日頃、他院を受診されている妊婦さんでも、それぞれの病院で何か問題があると判断された場合には、極力当院が患者さまをお受けするよう努めております。

【周産期医療システム略図】

当院(総合周産期母子医療センター)



他院から当院へ搬送(紹介)される場合、患者さまの情報伝達は医師間同士で直接伝えられます。また、図のようにシステムはとてもシンプルです。

## <小児科>

当院未熟児病棟は25床の病床数があり、その内 NICU（新生児の集中治療管理室のこと）が6床で、新生児未熟児医療を行なっております。産まれたばかりの赤ちゃんに何らかの疾患がある場合や、早産などで、お母さんのお腹の中で十分に発育出来なかった赤ちゃんが入院しております。未熟児病棟では24時間体制で1名の医師を配置しており、看護師の人数も他の一般病棟に比べて多く配置し、管理を徹底しております。

病棟では高度な医療を行なうだけでなく、保育器の中にいる赤ちゃんがお母さんのぬくもりを感じられるように、“カンガルーケア”という看護を取り入れ、育児支援を目的とした看護も積極的に行なっております。



<カンガルーケア中の様子>  
とても気持ちよさそうに眠っています。

さて、最近の報道では、医師不足の問題など日本の医療は崩壊しているというイメージを強く感じてしまいます。特に、周産期医療では“妊婦さんを受入れる病院が無かったケース”などが問題となっています。しかし、本当に日本の医療は“崩壊”してしまったのでしょうか？確かに、周産期医療に関わる産婦人科、小児科の医師不足は現実としてあり、当院でもスタッフ全員が日々全力で診療を行なっております。また、将来の周産期医療を担う医師を育てていくことも、これからの重要な責務です。

しかし、まだ日本の周産期医療は世界と比較してもトップレベルの医療を行なっているのです。新生児の死亡率は世界の中でも最低クラスであり、妊婦の死亡数も先進諸国の中でもとても少ない数です。

では、私たちが暮らす道南地域はどうでしょう？道南地域では、周産期の体制が医療機関の間でしっかり浸透しております。その為、東京などの大都市よりも比較的安心して出産できる環境があります。その理由としては次の2点が考えられます。

道南地域には『総合周産期母子医療センター』は当院だけなので、センターが複数存在する大都市に比べシステム構造（オモテ面のシステム略図参照）がシンプルで、妊婦さんや胎児に異常があると判断された場合、最終的に当院が患者さまをお受けすることになっている点。

道南地域は人口の減少とともに、出産の数も減少傾向にあります。少子高齢化という問題を別として考えると、出産数が減少していくほど、出産を控える妊婦さんにとっては出産をする環境がより多くなるという点。

より安全に出産していただく為に、患者さまに心がけていただきたい事は、出産の直前になってはじめて受診したり、出産まで未受診だったということをしていない事です。母子ともに健康に、そして安全に出産していただく為に、日頃からの定期的な受診が欠かせません。前述

のように、それぞれの病院で妊婦さんや胎児に異常があると判断された場合には、我われ医療機関が連携し、“不測の事態”を“予測の事態”に変えることが出来るのです。

今後も、地域と医療を取り巻く問題を考え、より安全な医療体制を整備する必要があります。

当院は道南地域の周産期医療の中核を担う責任を強くもち、『中央病院があるから安心だ』と、皆さまに信頼していただけるよう努めていく次第です。本誌をお読みになって、皆さまの不安を少しでも軽減することが出来たら幸いに存じます。今後ともよろしくお願い致します。

## ドトールコーヒーショップ開店

1階正面ロビー横（現、軽食コーナー）にドトールコーヒーショップがオープン致します。メニューにはコーヒーの他、パンもそろえております。また、お店を利用しない方でもイスに座りご歓談いただけます。



イメージ図

オープン後、患者さまよりご意見をいただきながら、充実したサービスを提供できるよう改善していきますので、お気軽にご利用下さい。

**オープン予定：平成20年12月4日（木）9：00**

**営業時間 平日 7：30～19：30**

**土曜 7：30～16：00**

**日祝祭 9：00～14：00**

## 今月の笑顔

今年4月より東4病棟に勤務しております、新人看護師の小峯佑太です。東4病棟では唯一の男性看護師として勤務しております。業務にはまだまだ不慣れな事もありますが、優しい教育指導の先輩をはじめ、経験豊富な先輩方、それに医師

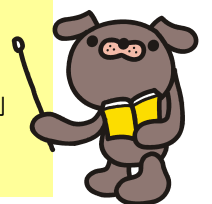


看護師：小峯 佑太

にも支えられ、日々奮闘中です。東4病棟は上下肢の整形外科で、手術後は思うように動けない患者さまが多く、体の変化を受け入れられない患者さまも多いように感じます。私はそのような患者さまのために身体的サポートや精神的サポートを行い、安心した入院生活を送って頂けるように努めていきたいと思っております。

### 【患者さまの権利】

1. 安全で良質の医療を平等に受ける権利
2. 十分な説明を受ける権利
3. 自らが受ける医療に参加し自己決定する権利
4. 自らが受けている医療について知る権利
5. 個人のプライバシーが守られる



『電車どおり』では、皆さまのお役に立ちそうな情報をどんどん掲載していく予定です。記事に対するご要望などがございましたら、広報誌担当事務局までお問い合わせ下さい。

連絡先： 0138-52-1231（内線261）

次号発行予定は12月25日です。お楽しみに！！